

1月の安心かわら版



1月の主な行事

1日	: 元旦	9日	: 成人の日
6日	: 小寒	11日	: 鏡開き
7日	: 七草	20日	: 大寒



知ってる？

火災から身を守る対策

火災とは

一般の住宅では、毎年多くの火災が発生しており、調理器具や暖房器具、たばこをはじめ、電気機器や配線器具の誤った使用による「電気火災」等、火災の発生原因は日常の中に多くあります。例として、電気ストーブに布団等が触れて発火したり、束ねた延長コードが熱を持って発火するケース等が挙げられます。



火災の覚えておくべき5つの特徴

- 1 火災は、空気が乾燥しているときに起こりやすく、さらに風が強いと燃え広がりやすい。
- 2 プラグとコンセントの隙間のほこりや湿気が原因となり、出火することがある。
- 3 長年の使用によって劣化した電化製品が発熱・発火し、火災の原因になることもある。
- 3 発泡スチロールやウレタン等の断熱材、プラスチック製品が燃えたときは、木材に比べて多くの煙が発生する。
- 4 IHクッキングヒーターでも、加熱する力によって、少量の天ぷら油から火災につながる危険がある。
- 5

火災の原因や火災時の対応を知る。火災に備えよう

発災直後 火災になりやすい原因を知る

建物火災の原因は、「こんろ」「たばこ」「電気機器」等の割合が多くなっており、ほかにも「配線器具」「ストーブ」等が挙げられます。コンセント等の電気設備からの出火や、人がいない部屋からの出火の原因には、ゴミブリやネズミ、ペット等も関連していることがありますので、建物内外の環境に注意しましょう。

事前準備 火災が起きにくい環境作りを心掛ける

家の中や周囲等は、あらかじめ火災が起きにくい環境作りを心掛けましょう。ストーブの周りに物を置かない、ライターやマッチを子どもの手の届く場所に置かない、コンセントの掃除を心掛ける、寝具やエプロン、カーテン等は防災品にする、家の周りに燃えやすいものを置かないといった対策が住宅防火につながります。

事前準備 消火器の正しい使い方を知る

消火器を使用するときは、安全ピンを外し、ホースを火元に向けて、レバーを強く握って噴射します。住宅用消火器には、紙や木材、布等が燃える「普通火災」のほか、天ぷら油で起こる「天ぷら油火災」、電気コード等で起こる「電気火災」等、適応する火災が絵で表示されていますので、用途に合わせて選ぶようにしましょう。

発災直後 もしも火災が起きたときに取るべき行動

火災が起きたときは、まずは大きな声で周囲に火災を知らせ、落ち着いて119番通報をします。煙を吸わないよう、姿勢を低くし、ハンカチ等を鼻や口に当てて避難しましょう。もし炎が天井に燃え移ってしまった場合は、初期消火は止め、炎が燃え広がる前に、迷わず素早く避難してください。

秩父支店スタッフ ~よろしくお願ひします~



レジアスインプクト(株)秩父支店

chichibu@rezeous.co.jp

〒368-0024 埼玉県秩父市上宮地町26-21

TEL 0494-27-3210 FAX 0494-26-6555

事務所の電話番号も登録お願ひします！